受領　令和８年９月 29 日 10 時 55 分	通告番号 (16) 1/2

令和８年９月 29 日

読谷村議会
議長　比　嘉　幸　雄　　殿

読谷村議会議員
青　山　真　紀　　印

一 般 質 問 通 告 書

第 555 回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第 61 条第２項の規定により通告いたします。

質　問　要　旨	答弁を求める者
循環型の村づくりに向けて １　村施政方針について伺う。 環境施策：ごみの減量化や資源化を促進するとともに、豊かな自然環境の保全取組み。 村政運営に対する基本方針：3 自然環境と共生するむらづくりの推進。 本年度の予算と実施項目：風水としなて悠々と暮らさ(自然と調和した潤いのあるむらづくり)　循環型社会の推進につきまして、一般廃棄物処理基本計画に基づく施策を展開するとともに、安定的な廃棄物処理を行うため環境美化センターの延命化を図る。村民や自治会、事業者、行政との協働によるごみ減量化の取組み、を上げています。 （１）伊波村長が掲げます循環型社会の推進について伺います。	
２　学校給食の食残渣について伺う。 （１）読谷村の学校給食から年間どれだけの食残渣が発生し、その処理に年間いくらの費用を要しているのか。また、その残渣在どのような方法で処理され、資源化はどの程度行われてるのか。 ア　どれくらい出ているか。年間の残渣量。調理くず、食べ残し、未配食・その他の廃棄物を区分して計量・記録しているか。 イ　処理費はいくら掛かっているか。収集・運搬費、処理委託費、年間の総額。1kg あたりの処理費。 ウ　どこでどう処理しているか。焼却、堆肥化、飼料化、生ごみ処理機、その他。 エ　資源化できているか。堆肥として農業へ、農家との連携、エネルギー化、給食から農業への循環。 （２）現在の学校給食残渣の処理について、村として環境面・経済面・衛生面からどのように評価しているか。	

質　問　要　旨	答弁を求める者
3　草木資源化施設について伺う。 広報よみたん 2026 年 2 月号より「近年、草木搬入量が増加傾向にあり、チップの配布を上回る量で施設がひっ迫してきております。村民サービスを落とさず、施設の延命化を図るため、一部受付内容が変わります。」と 4 月 1 日からの受付変更の案内がされました。 （1）なぜ搬入量とチップ利用量のバランスが崩れているのか、その原因をどのように分析しているか。 （2）過去３年間の搬入量、チップ化量、チップ配布量、配布先別数量、施設内滞留量を伺う。また、チップを利用している農家・畜産農家の戸数と利用目的を把握しているか。 （3）農家・畜産農家・造園業者・住民・学校等をつなぎ、草木資源を地域内で循環させる仕組みは検討しているか。	
4　楚辺浄化センター、下水道の汚泥処理について伺う。 （1）年間何トン出て、どこでどう処理され、いくら掛かっているのか。 ア　年間発生量、月平均、汚泥の含水率、脱水後の重量。 イ　脱水された下水汚泥は、どこへ運搬され、どのような方法で処理されているのか。 ウ　下水汚泥の脱水、搬出、運搬、処理に、年間どのくらい費用がかかっているのか。 （2）下水汚泥を肥料・土壌改良資材等として地域農業に活用する可能性について、村としてどのように考えているか。 （3）現在の汚泥処理は、環境・安全・経済性の面から適切なのか、またどのように評価しているのか、見解を伺います。	
5　農業、畜産業の物価高騰支援について伺う。 （1）農業・畜産業経営では、実際に何の経費がどれだけ上昇しているのか。 ア　令和 2 年度を基準として、令和 7 年度の村内農家の主要肥料の購入単価は何%上昇しているか。化学肥料、有機肥料、堆肥、土壌改良資材、農薬。 イ　畜産業における飼料購入費について、令和２年度と令和７年度を比較すると何%上昇しているか。	